



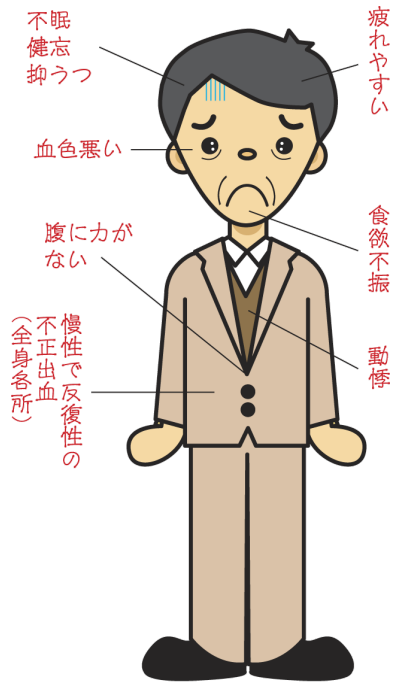
帰脾湯 (きひとう)

【処方コンセプト】 身も心も弱り、心(精神)の疲れを訴える方に。

このタイプの方は、食欲もあまりなく、そのために体を滋養できなくて、疲れやすい。そして、栄養不良が影響し、肉体だけではなく、心も滋養できないため、精神神経症状や不眠などを訴えることになる。

◆帰脾湯は、心血虚と脾気虚が併存する「心脾両虚」を改善する処方である。

◆心血虚とは、不眠、動悸、健忘、不安感など大脳や中枢神経系、心臓の拍動による循環機能の異常のことで、脾気虚とは、疲れやすい、食欲不振、軟便など消化器系の機能低下をさす。



◆直接の適応は健忘・動悸という「心」の症状であり、これに対して心に血を供給して治療する。しかし、その心の症状を引き起こす原因は脾にあると考え、同時に脾気を補って原因の治療も行う。

◆脾の機能の一部に「統血作用」があるとされ、血が血管から外へ漏れ出（出血）ないように脾がコントロールしていると考えられている。脾の機能を補う帰脾湯は、血尿、子宮出血あるいは皮下出血（紫斑病や血小板減少など）など各種の出血にも用いる。

◆帰脾湯タイプの不眠は、眠りが浅く、夢をよく見て、夜間によく目が覚める。逆に嗜眠傾向で、日中も眠くて寝てばかりいる場合もある。

【処方構成】 12味

補気の基本方剤である「四君子湯」に、黄耆（オウギ）を加えると、補気の働きが増強でき、理気（気の巡りを改善する）の木香（モッコウ）によって、脾胃の気を調え、食欲を増進させる。養心安神（心血を補って鎮静させる）の竜眼肉（リュウガンニク）、酸棗仁（サンソウニン）、遠志（オンジ）や当帰（トウキ）で心を滋養し、動悸、不眠などの症状を改善する。補気補血の効能を十分に発揮させ、さらに安神薬により不安を取り除く。また、人参と当帰で新血をつくる。



| | 驅瘀血 | | | | 清熱 | | | | 利水 | | 補氣 | | | 理氣 | | 解表 | 安神 | | 配合生薬数 | | | | | | |
|----------|-----|----|-----|----|----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-------|----|----|----|----|-----|-----|
| | 当帰 | 川芎 | 牡丹皮 | 芍薬 | 柴胡 | 釣藤鈎 | 山梔子 | 薄荷 | 竹筴 | 升麻 | 茯苓 | 半夏 | 白朮 | 黄耆 | 人参 | | 大棗 | 甘草 | | 陳皮 | 木香 | 枳実 | 生姜 | 竜眼肉 | 酸棗仁 |
| 帰脾湯 | ○ | | | | | | | | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 12 |
| 抑肝散加陳皮半夏 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | | | 9 |
| 加味逍遙散 | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | | ○ | | | | ○ | | | | ○ | | | | 10 |
| 温胆湯 | | | | | | | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | 7 |
| 補中益気湯 | ○ | | | | ○ | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | | | 10 |

| 処方名 | 類方鑑別 |
|----------|--|
| 帰脾湯 | 気を増す四君子湯がベースの処方で、からだの疲れが精神にまでおよぶもの。 |
| 抑肝散加陳皮半夏 | 痞が高ぶってイライラしているために、興奮が収まらず、眠りにつけない。ヘソの左に動悸を感じ、震えや痙攣が生じる。 |
| 加味逍遙散 | イライラして怒りやすい、女性では強い月経前緊張症を訴える。些細なことでも腹が立ち、イライラするため眠れない。 |
| 温胆湯 | 慎重派でまじめな性格。物事を決断することに時間がかかり進まない。布団に入ってからあれこれ考えてしまうため、なかなか眠れない。 |
| 補中益気湯 | 不眠や精神不安といった精神症状は少ないが、元気がなく血色が悪い。エネルギー不足のため、すぐにバテたり、カゼをひきやすい。 |